



京都大学 医学教育学プログラムFCME—導入編

医学教育 ケースカンファレンス2020 Online

Case Conference in Medical Education (CCME)

多くのFaculty Developmentや臨床研修指導医講習会では医学教育の理論や根拠について知る機会がありますが、では実際に現場の教育の問題をどのようにすればよいのか、ということにまではなかなか踏み込んでいません。本企画では、症例検討会 (Clinical Problem Solving Conference) の形式を応用して、医学教育現場において指導医 (参加者) が抱えている課題に対し、参加者による事例提示とそれに対する講師および仲間からのコメントという形で、教育事例検討会を進めます。

本企画は好評をいただいている京都大学FCME (現場で働く指導医のための医学教育学プログラム—基礎編) のエッセンスを体験できる機会となっています。2019年度に開講し、2020年度は2回目の開催となります。今年度はオンラインでの実施となり、事例を発表いただく発表者と、発表やディスカッションを聴講する発表者以外の募集となります。

同プログラムの講師が個別の事例に対してそれぞれ、参考になりそうな医学教育学の書籍や論文、資料を提供します (発表者は事前に事例提示を準備いただくことが必要です)。

プログラム

● 13:00-13:30

『開講、講義：医学教育学の概論』

～医学教育学が教えてくれること～

● 13:30-17:20

『教育事例検討会』

(発表者1人あたりプレゼン+討議で40分程度×4回)

● 17:20-17:45

『まとめ、閉会』

～我々はこれからどのようにしていけばよいのか?～

講師

- | | |
|-------------|-------|
| ・名古屋大学、京都大学 | 錦織 宏 |
| ・京都大学 | 種村 文孝 |
| ・京都大学 | 木村 武司 |
| ・新潟大学 | 磯部 真倫 |

開催概要

日程 (オンライン実施、zoomでの実施)

2020年9月26日 (土)

※13:00～17:45を想定

※講義+ディスカッションでの進行の想定

参加費 (クレジットカード、または、銀行振込)

●発表者 1名 **15,000円** (税込)

●発表者以外 1名 **8,000円** (税込)

※発表者は銀行振込のみとなります。

申し込み (発表者は選抜可能性があります。)

以下URL、またはQRコードよりアクセス

●発表者

<https://bit.ly/33opDmr>

定員限定4名、9/9締切



●発表者以外

<https://bit.ly/31ays0x>

定員30名程度予定、9/22締切



●対象者

- ✓ 院内・学内で後進育成に関する仕事に関わっているが、自分のやっていることがこれでいいのかとお悩みの方
- ✓ 院内・学内で教育熱心というレッテルを (不本意ながらも含めて) 貼られてしまった方
- ✓ 京都大学FCMEに関心はあるが、基礎編 (1年間120時間) のプログラムに参加することに躊躇している方
- ✓ COVID-19流行のため教育実践の発表機会を失ってしまった方
- ✓ 医学教育についてディスカッションしたい方、医学教育の仲間やつながりを求めている方

※なお医学生・研修医で参加希望の方は、原則 オブザーバーの形となります。

※本導入編は、基礎編のオープンキャンパスも兼ねています。(発表者、発表者以外ともに対象です。)

※2019年度導入編受講者から、2020年度の基礎編受講に進んだ実績があります。

◆2019年度に相談にあがった悩み（一例）

教育が大切なことは認識しているが、学生とじっくり向き合うことができない・・・

医学生に対する教育への自信およびモチベーションが喪失してきている・・・

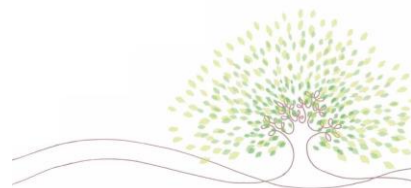
教育は手間がかかる割には、教員としては評価されにくい・・・

教育目標の具体的な認識がなく、指導医間での共有や指導法の統一性がない・・・

学生の希望と指導医の理想の乖離があり、熱心な指導を望まない学生も多い・・・

教育を担当する人材の不足、時間の不足をどうしたらよいか見えない・・・

座学中心の教育では成果は上がらないが、どのようにしたらいいか分からない・・・



2019年度参加者の声（抜粋）

●全体

- 医学教育についての専門知識のない臨床医という自覚があるため、申し込んだ当初は完全に場違いな参加になるのではないかと心配していましたが、先生のはじめの講義をお聞きして、教育に対する自分の考え方を見直す良い機会であると認識した上でディスカッションに臨むことができました。
- 教育について技法、目的、動機付けなどに分けて講義、ディスカッションをする機会は初めてだったので勉強になりました。感覚的に教育をとらえていましたが、何を目標としてどういったアプローチをとりたいのかを理解していないことがわかりました。今後の課題です。
- 今まで直感的にしかやっていなかったことを論理的に説明し、疑問にも答えていただけたので満足です。医学教育って何だろう、という初心者にも満足な内容でした。
- いつも現状の教育が正しいのか自問自答していました。結局何を目標するか難しいですが、今のやっていることがあながち間違いじゃないことに安心しました。
- 自分が悩んだり考えたりしていることが、他の施設の先生方も同じように悩んだりしているということが認識できた。初めて「成人の教育とは」というテーマで系統だった話が聞けたことは、ぼやっと感じていたことを確認できて有意義だった。



●教育事例検討会

- 医学教育学の専門的視点から既に教育を実践している参加者もあり、レベルの違いを感じてしまいましたが、そのような臨床医がいるということがわかったことも収穫でした。また参加者のバックグラウンドは様々で、それぞれ異なった状況で教育の問題解決のために奮闘しているということがわかり、学生教育に関わり始めたばかりの立場である自分の今後のモチベーションとなりました。
- 一つの問いに対して全く違う角度から質問が飛んできてとても楽しみました。
- 今まで一人でもやもや悩んでいたことを客観的に見ることができました。また、ほかの施設の先生方の頑張りを知ることができて励みになりました。
- 他の施設の先生方の教育への取り組みを知ることができてよかったです。
- いろいろな現場の先生方の悩み等聞いて面白かったです。ただ教育に関してはみんなが悩んでいることは同じことが多いこともわかりました。
- 事例検討のために自分が改めて考える機会を得られて良かったと思う。むしろそれが目的の事例検討だったのでしょうか。環境が違うことで他の先生の事例に共感できない場合、柔軟に考えられなくなっていることに気づかされた。結局自分自身と向き合う場を提供していただいたと思っている。

